

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年8月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070101066
法人名	社会福祉法人ほたか会
事業所名	グループホームあおなし
所在地	前橋市青梨子町1670番地 (電話) 027-210-7100
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年8月7日

## 【情報提供票より】(20年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 8月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 20人, 非常勤 2人 常勤換算	20.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨瓦葺陸屋根造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分
	3階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日 1,500円		

### (4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	27名	男性	4名	女性	23名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	7名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	64歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	老年病研究所付属病院・こすもすクリニック・小野歯科医院・青柳歯科クリニック
---------	---------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、社会福祉法人ほたか会の1つで、桜と紫陽花の花に囲まれた静かな環境の中に位置している。開設から8年を経過し、介護度が高い入居者が多いが、入浴設備では機械浴を備えるなど対応している。また入居者が重度化し、看取りの必要が生じた場合の対応の指針も明確で、入居時にご家族に説明している。医師、看護師、家族と事業所職員で話し合いを重ね、看取りに対応できる体制がある。ホームは自治会に加入し、清掃活動や花植え等地域活動に日常的に参加し交流に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果は、運営推進会議や職場会議で報告し、検討されている。「施設していること」「職員と入居者が一緒に食べないこと」「食器が皆同じであること」が指摘されていたが、ホーム側の理由もあり、大きな改善には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価項目は、管理者が職員に聞いたり、職員間で討議して、管理者がまとめている。まとめた自己評価は、職員に閲覧できるようにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催され、会議毎に議題を決めて活発に討議している。地域交流の方法については、自治会長から助言を頂いたり、ホーム側から積極的に地域活動に参加して、その結果地域のボランティアが来てくださるようになる等、地域との交流を活かした取り組みをしている。また、「あおなし便り」を、広報と一緒に地域に配布していただけるようになる等、具体的な取り組みをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年に1回ご家族に「施設サービスアンケート」を郵送し、無記名で返送してもらっている。住環境や処遇、接遇について丸印のチェックと、またその他何でも記述してもらい、ホーム運営に反映させている。結果は、ホームの見解を記入し公表している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は自治会に加入し、文化祭、納涼祭、ゴミ拾い、資源ごみの回収に協力するなどしている。町づくり協議会には入居者と一緒に参加し、緑化運動の花植えやそば打ちに参加している。交流を通して、地域の方がボランティアに来てくれる等地域との交流が行われている。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての独自の理念ではないが、法人としての「あおなし訓」が7項目ある。その中の「よろこばれる施設」という項は、地域の方が来やすく、グループホームとはどんなところなのかを知らせることと事業所は理解しているが、文章化されていない。	○	法人のあおなし訓を踏まえて、地域密着型サービスの理念として文章化し職員一同で共有してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「あおなし訓」を、朝礼で毎日唱和している。朝礼当番の係りは、「あおなし訓」の一つから具体的な提案を考え伝えるなど実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入し、文化祭、納涼祭、ゴミ拾い、資源ごみの回収に協力している。町づくり協議会には入居者と一緒に参加し、緑化運動の花植えやそば打ちに参加している。交流を通して、地域の方がボランティアとして来るようになる等地域との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価において、施設の常態化が指摘されている。評価を活かして台所や洗面所は施設しない時間帯を設けるなど前向きに検討し、取り組んでいる。自己評価は管理者とケアマネージャーで作成し、職員に閲覧している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開かれ、メンバーは自治会長、市職員、入居者家族が参加している。議題は幅広く、外部評価を含む事業所の報告、事業所の日課、ヒヤリハット、防災訓練等である。また、会議に入居者と同じ食事を提供し、意見や感想を聞くなどサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からないことや事業所の短期利用、基準の変更など電話で聞いたり、事故報告などに出向くこともある。昨年度は、市の介護保険課主催の情報交換会が2回あり出席している。群馬県地域密着型サービス連絡協議会と3市の介護関係者で学習会を開催し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と一緒に「おたより」として事業所内の報告や行事の誘いと、入居者1人ひとりの日常の様子を担当職員が手書きしたものを送付している。入居者個人の写真を添付しているため、家族は親類にコピーをして配ったりファイルしている。家族の面会時には、暮らしぶりや健康状態について口頭報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族の出席があり意見を聞いている。法人の方針で、年1回「施設サービスアンケート」を行い、結果についてはまとめて運営推進会議で報告し、面会時にも閲覧できるようにファイルして玄関においている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内や3ユニット内の異動が行われている。職員の異動は短期間で行っていたが、家族から替わると寂しいとの言葉が聞かれ、意見を活かして期間を長くして行っている。退職は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に介護研修センターがあり、マナーから介護上必要な知識、認知症、食中毒、身体拘束などの研修会があり、参加している。外部研修にも、職員の経験を踏まえた参加をしている。ホーム独自でも月に1回時間外に勉強会や意見交換会を行い、職員を育てる取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会に所属し、勉強会や会議、他の事業所との交換研修を行っている。交換研修では、地域との交流方法を学び取り組みに活かしている。今後は、事業所間の見学会を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居は、同一法人の老人保健施設からの紹介、病院のソーシャルワーカーやケアマネージャーからの紹介、家族からの問い合わせの場合がある。事業所に空きがある時には、ショートステイとして、施設の雰囲気や職員に徐々に馴染めるように相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者と暮らす同士として入居者の「こだわり」「楽しみ」「哀しみ」「不安」「拒否」などの根本にある気持ちを知ること努め、暮らしの中で分かち合い共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は、本人からお聞きするようにしている。抵抗や拒否といったネガティブな行為も、本音を聞けるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス計画書は、入居者の希望、家族の意向、職員の意見やアイデアを反映し、計画作成担当者が管理者と相談して6ヶ月毎に作成している。	○	課題分析は明確に記入されているが、サービス計画書は日課計画が主で、解決すべき課題が書かれていない。サービス計画書は事業所としても模索しているようなので、援助目標、援助内容を入れた作成を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメントから課題を抽出し、現状に即した介護計画の修正がされず家族のサインも確認できなかった。	○	サービス計画書は、3ヶ月毎に見直すと共に状況変化に応じて随時修正をし、ご家族の確認印をいただくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションが法人の敷地内にあり、医療連携体制加算を算定している。看護師に日常的な健康チェックをしてもらったり、急病時の対応等について相談できる体制がある。月2回の理美容や受診時の送迎(車イス対応)などを行い支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科、歯科医の往診は、週に1回ある。ホーム利用前のかかりつけ医に受診している入居者もおり受診は家族の送迎としている。訪問看護ステーションの看護師が事業所内での情報を提供するなど適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として「重度化や看取りの指針」があり、入居時に家族に説明している。重度化した場合には、医師、看護師、家族と事業所職員で話し合いを重ね全員で方針を共有している。終末期においては、職員は家族の気持ちを直接聞くことで思いを共有し介護している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや個人情報の取り扱いについては、研修会を行い周知している。日常的には、居室に入る時はノックや声かけをする、トイレや入浴時は戸を閉めるなど、職員全員で注意している。記録物は外部の目につかない所に収納し、記入する時も決まった場所で記録している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所として日課はあるが、一人ひとりのペースを大切にしている。行事等の外出の時でも希望しない入居者がいれば職員も残って対応したり、朝に散歩したい人、夕方に散歩したい人には希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ等の準備やテーブルを拭く、食器を洗うなど片付けを一緒に行っている。「喫茶店メニュー」として飲み物が書かれ選べるようにするなど工夫して食事が楽しめるように支援している。入居者と一緒に食事をする点については、入居者の食事介助と職員の休憩という点から困難と考えて昼食、夕食は一緒にしていない。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は概ね決まっているが、入浴回数は希望を聴いて対応している。介護が重度化し、半数はリフト浴により入浴支援を行っている。入浴が苦手な方には、「身体検査」などの声かけで誘導したり、時間をずらすなどの支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植物の世話、新聞を取りに行く、カーテンを閉める、食事の際のテーブル拭き、また仲居の経験者が食事の盛り付けなど力を活かした役割や、塗り絵、歌、折り紙、習字、編み物など楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、入居者と一緒にゴミ捨てに行ったり、お菓子を買いに行ったり、納涼祭に出かけたりして日常的な外出支援をしている。3ヶ月に1回位、ユニットの数名と職員で昼食を外食している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害については事業所内で話し合い、運営推進会議にも議題として取り上げている。各ユニットの入口と玄関、台所、風呂などは施錠され、出入りのたびに鍵で開けている。	○	今後も検討を重ね、鍵をかけないケアに向け取り組みを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する法人のデイスサービスや老人保健施設と合同で、年2回避難訓練を行っている。今年7月の訓練は、震度5の地震発生後ホームから出火の想定で実施している。地域との連携は、運営推進会議で自治会長から話があり、今後の課題として検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、グループ内企業の栄養士が立て食材を配送してもらい、職員がユニット毎に調理している。食事摂取量は、主食、副食に分けて10割中何割摂取したかを記録し、食事を摂りにくい場合は、総合栄養剤等使用したり、別のおかずにしたたり、形態や盛り付けを工夫するなど一人ひとりの状態に応じた支援をしている。水分量もチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は、多目的ホールとなっていて広々と明るい。台所にも面しているため、入居者が食事の手伝いをするにも機能的な造りになっている。居室前の廊下や居間には、緑の鉢物が置かれ居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洗面トイレがあり、ベットとダンスが備品として備わっている。自宅からは使い慣れた椅子やテレビ、本や位牌や仏壇などを持ち込み、写真や絵、手作りの作品などを飾っている。本人の希望や状況により、畳に布団を敷くなど居心地よく過ごせるように工夫している。		